

# みみょう幼稚園だより



平成30年7月号 \* \* \* \* \* <http://mimyo.org/youchien/>

## 梅雨の頃・・・

雨の降る日も多くなり、お部屋で過ごす時間が増えてきました。4月から新しい環境で過ごし始めて3か月余り、子どもたちは着々と成長をしています。身体はもちろんのこと、心も成長をしていますので、自身の置かれた状況や先生、お友達との関わりについての認識も深まり、安心感を持つ反面、困り感や不安も表出される頃でもあります。まだまだ、幼児さんなので、言葉や理屈では説明できない体調不良を訴える子どもさんもおられると思います。小さな変化や心の動きにもしっかりと目を向け、一見マイナスと思える姿も、大事な成長の一過程であると、難しいことはありませんが、時にはおおらかに受け止めなくてはならないと思います。私たち最も身近な大人の不安感が子どもたちを一層不安にさせないように、自己肯定感の低下につながらないように、心の成長を喜びとして受け止めていきたいと思っています。

## 幼児期の集中力とは

本年度、みみょうグループのキーワード「選択と集中、状況判断」のうち、先月号では、“選択”についてご紹介しました。今回は“集中力”について考えてみたいと思います。

集中力と言えば、一つの物事に対し、長時間没頭し取り組める姿を想像します。そして、それがいわゆる認知能力や学力の向上につながり、自立に向けてより広い選択肢を持てるようになって考えられます。集中力は、さまざまな力を獲得していくための源になる不可欠な力であるとも言われています。さて、幼児期です。

**子どもの心は一時一事、一時一我がその特性である。  
ちょっとでも面白いことがあれば、  
すぐ他事一切を忘れる。  
興味の向かうところ直に全我をその中に没入して  
躊躇し遅疑するところがない。  
これが子どもの本性である。**



「この虫、何だろう？図鑑で調べよう」

これは、「日本の幼児教育の父」と呼ばれる幼児教育者、倉橋惣三(1882-1955)の言葉です。これまで、子どもたちにしっかりと遊び込めるようにしていきたいと繰り返しお伝えをしてきました。これは、倉橋先生の言われるところの、子どもたちの本性を生かすことに他ならず、この本性こそが集中力の原点であると思います。一心にカタツムリを見ている子どもに、ブロックを高く高く積み上げている子どもに、その動きを途中で途絶えさせてしまったらどうでしょうか。十分な感動や達成感を持つことはできないでしょう。そんな途切れ途切れの時間が、繰り返されてしまったら、子どもの本性が、十分に生かされない育ちの過程を与えてしまうことになります。もちろん、はじめや生活習慣を身に付けることも忘れることなく、子どもたちの育ちを促していきたいと思っています。

遊び込むことのできる面白いことが待っている保育室や園庭があり、没入を遮らない保育者が常にそばにいる、そんな幼稚園こそが、集中力も伸ばせる幼稚園であると思うのです。

(園長 三上 玲子)